かわごえ環境ネット

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

100th Anniversary Kawagoe City
時をつなぐ　未来をつむぐまち　川越

かわごえ環境ネットは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

広報 かわごえ環境ネット

2022年9・10月号 No.187

かわごえ里山イニシアチブで初めて行った「はざかけ」風景。昔の田園風景を再現してみました。いわゆる稲を天日干しで自然乾燥させるのですが、おいしいお米に仕上がると言われています。手刈りによる稲刈りで大変でしたが、昔の人は機械を使わずよくやったものです。　（2021.9.19 増田純一撮影）

2:【報告】夏の郊外クリーン活動（7月18日）
3:【報告】社寺林の観察会、キノコの観察会、虫の観察会（自然環境部会）
4:【コラム】「脱炭素社会に向けて（3）水素社会を考える」「伊佐沼で子孫をつなぐキタミソウ」
5:【参加者募集】川越まつり会場 事前クリーン活動／2022森フェスin川越
6:かわごえ環境ネットからのおしらせ／「環境活動報告集」投稿・発表者募集
7:会員からのおしらせ／アースデイ川越in昭和の街2022
8:イベントカレンダー（2022年9月1日～10月31日）／『川越の建物 蔵造り編』9月30日発行

残したい川越の風景（5）秋を彩る川越市福田の田んぼのはざかけ

【報告】夏の郊外クリーン活動（7月18日）

集合写真（川越市民聖苑やすらぎのさとにて）

かわごえ環境ネットでは、春夏秋冬の4回のクリーン活動をしております。7月18日（月）に市民、団体や事業者に参加を呼びかけ「夏の郊外クリーン活動」を行いました。

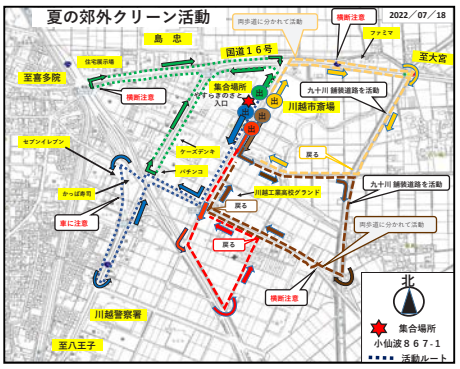
9時30分に「やすらぎのさと」に集合した参加者は47人。昨年は39人。新型コロナウイルス感染対策のため、体温測定、手の消毒を行い、3密に配慮しました。

9時45分、参加者は5班に分かれ、各リーダーの誘導で国道16号、254号などの道路や空地の清掃活動を開始。11時過ぎに「やすらぎの里」に戻り、集めたゴミの分別作業を行い解散いたしました。猛暑の中、熱中症に気をつけながらの活動でしたが無事終了しました。

今年の参加者の内訳は、武州ガス、ビージーエンジニアリング、本庄ガス社員有志11名、第一生命川越西部営業オフィス社員有志14名、市民の方々、かわごえ環境ネット会員など、11～85歳の幅広い年齢構成でした。ありがとうございました。

なお、今回は東洋大学総合情報学部生の丹優介君がプラスチックゴミの研究のために参加、集めたゴミ分類や参加者へのアンケート調査を行いました。

今回のクリーン活動は、かわごえ環境ネット社会環境部会の支援、渡辺利衛さんの尽力により行われました。ありがとうございました。　（菊地三生）



活動ルート

活動前の説明の様子

武州ガスと関係会社の方々

ゴミ拾い開始

見えないところにゴミが

第一生命の方々

分別開始

本日の成果

成果を前にして

ゴミの組成調査

煙草の吸いがらがたくさん

成果を前にして

【報告】社寺林の観察会、キノコの観察会、虫の観察会（自然環境部会）

社寺林の観察会（6月18日）

日時：6月18日（土）9:30-12:00、参加者：16名、講師：稗島英憲氏・山中和郎氏

喜多院、中院は寺院として古刹で由緒ある立派なものですが、樹木や草本など自然に目を向けると、またすばらしいものがあります。喜多院には歴史を彷彿とさせる樹木があり、中院は「花の寺」といわれるほど多様な花木があります。コロナ禍の中、参加者人数を少なくして、感染対策を講じたうえで実施いたしました。2つのグループに分かれ、Aグループは喜多院から出発です。ここで有名な木は天海僧正お手植えといわれるコウヤマキでしょうか。樹齢は300年を超えます。川越では珍しいと言われるアカガシが数本、幹の中が空洞になりながらも懸命に葉を広げています。講師の山中氏が空洞になったわけを参加者に聞きます。雷か、虫食いか、中心部が欠落しても側の維管束で樹木は生きていける。樹木の組織の話を聞く。アカガシは準絶滅危惧（NT）で、樹木のRD種は川越ではとても少ないです。

社寺林には仏教に縁のある木もありますが、ケヤキ、ムクノキ、クスノキ、アラカシ、スダジイ等古くから生育してきた大径木もあります。森林性や樹洞を利用するチョウゲンボウ、アオバズクなどの生物も、それにより守られてきているのだと改めて喜多院の「鎮守の森」のすばらしさを認識しました。

次は中院です。アカマツの変異種である多行松のユニークな樹形と磨かれた幹の赤さに感心しながら歩を進めると、足元に黄色いじゅうたんが拡がります。見上げてみると楽しみにしていたモクゲンジの花が樹木全体を覆うように咲き、梅雨空の下ひときわ黄色く鮮やかです。この観察会を6月に行うのは、モクゲンジの鮮やかな花を見ていただきたいためです。秋には黒い実ができて数珠に使われるそうで、お寺によく植えてある理由かもしれません。島崎藤村由来の茶室「不染亭」、「狭山茶発祥の地」の石碑などがあり、寺院とは別の顔も見られます。

空洞になったアカガシ（喜多院）

モクゲンジの花を見上げる（中院）

キノコの観察会（7月10日）

日時:7月10日（日）9:30-12:00、場所:「(仮称)川越市森林公園」計画地、川越南文化会館（ジョイフル）、参加者:19名・スタッフ4名、講師：稗島英憲氏・高杉茂氏

この夏は6月25日ころから連日35℃以上の猛暑が続き、6月27日には観測史上最短の梅雨明けとなりました。このような異常気象の中で水分の欲しいキノコは大変です。下見に行ってもキノコはほとんど出ていません。観察会当日もお日様がまぶしいほどの好天で、小さなお子さんもみんなで目を皿のようにして探しました。そうすると少しずつ草の下から見つかり始めます。チチタケはきずをつけると乳液が出てきます。「いい匂い、きのこの匂いがする」と見つけた方、これが旨みの成分です。ツルタケ、ツチカブリ、アミスギタケなどが見つかりましたが、イグチの仲間は例年たくさんあるのにほとんど出ていませんでした。「変なものがある！」と女性の声。行ってみるとコナラの幹に肉まんを張り付けたようなキノコが大小4個も。講師の方も初めて見たとのことで宿題になりました（後日、専門家の鑑定でヒラフスベらしいと）。

別の場所に移動すると、マツに栗のようなキノコがついています。ヒトクチタケで、中に特定の昆虫が入り込んで胞子を拡散します。サワフタギタケが、枯れた木にもこもこと発生しています。弱った樹木にキノコが付き、木を徐々に分解していき、やがて自然に還します。このようなキノコは腐生菌と呼ばれ、自然界で最終分解者の役目をしています。

ひとしきり森の中でキノコ探しをして、室内に持ち帰り鑑定です。例年の半分くらいでしたが、じっくり見ることができました。また、変形菌（粘菌とも）を採取してきた方がおられ、こちらもルーペで見て自然界の不思議な世界に話が盛り上がりました。この日はキノコだけでない植物や虫たちとの出会いも多くありました。小さなお子さん方も飽きることなく、動き回って楽しんでいた様子です。

肉まんが張り付いたようなキノコ

このキノコ、何ですか？

今日見つけたキノコ

虫の観察会（7月30日）

日時:7月30日（土）9:30-12:00、場所:「(仮称)川越市森林公園」計画地、参加者：応募参加者22名・スタッフ8名、講師:佐々木英世氏（埼玉昆虫談話会）

今年の夏は例年にも増して「異常」が際立っていました。6月下旬に早々と梅雨明けして猛暑の日々が続き、やがて戻り梅雨のような蒸し暑い日々の7月。そして新型コロナウイルス感染者数の急増です。このような中での開催でしたが、応募した方が全員出席され、最年少はママにおぶわれた1歳の坊やから70代の方まで、家族連れの方が多かったです。室内で課長の挨拶や講師の紹介の後、網や虫かごをもって林に向かいます。

最初に草原でバッタの仲間をたくさん見つけました。ショウリョウバッタ、カマキリなどは小さくて、まだ子どもです。アカハネナガウンカもいて、「えーっ、おもしろい顔！」とみなさん感動の様子。次いで、林の中に入るとちょっと涼しくて風も通り「気持ちいい。」の声が。樹林の中では甲虫の仲間が見つかります。シラカシにカブトムシがいました。カブトムシやクワガタの頭だけになったのがたくさん残されています。どうやらカラスの仕業らしいです。それを触っていた小学生の女の子が「アーッ！」と声をあげ、周りに人が集まってきました。ノコギリクワガタの頭だけになったのを触ったら指を挟まれたのです。腹や胸を食われても、頭部はまだ生きていたのです。講師の説明では「昆虫は脳を3か所にもっている。」とのこと。これは参加者のみなさんにも衝撃的な現象だったみたいです。

ちびっ子たちも虫を捕まえては講師、スタッフに問いかけ、親御さんたちも積極的に参加されて、集中力の切れない観察会でした。この日、観察した種は甲虫15種、カメムシ9種、チョウ6種、バッタ9種、トンボ2種、ハチ4種　その他クモ類、トカゲの類など45種ほどでした。

アカハネナガウンカ

これ、なんですか？

（3題ともに報告　賀登環）

【社会環境部会コラム】社会と環境について思うこと（21）脱炭素社会に向けて（3）水素社会を考える

水素はどのようにして作られるのか

二酸化炭素を出さない車ということで、世界的にもEV（電気自動車）の売り上げが伸びている。しかしながら、充電する電気が石炭や石油を燃やして作られたものであっては、発電段階で二酸化炭素をまき散らしており、全く意味がない。同様に、水素を燃やしても水しか生成せず、クリーンなエネルギーと言えるが、製造段階ではどうであろうか。トヨタでは燃料電池車（MIRAI）を販売し、水素社会の足掛かりをつかもうとしている。これらの水素はどこから来るのであろうか。

水素には「グリーン水素」「グレー水素」「ブルー水素」と呼ばれる3種類がある。太陽光・風力発電等の再エネ電気で水を電気分解して取り出したのが「グリーン水素」、化石燃料から改質・ガス化によって取り出したのが「グレー水素」で、製造工程で二酸化炭素が発生する。この二酸化炭素をCCS(二酸化炭素回収・貯留)技術と組み合わせたのが「ブルー水素」である。

2021年10月に正式に閣議決定された「第6次エネルギー基本計画」の中でも2030年の電源構成で石炭火力が19%も占める。海外からの批判に対し、水素やアンモニアを混焼させ、二酸化炭素排出量を減らす等の緩和策を提唱しているが、全く実効性のない言い訳である。元々、高効率な石炭火力発電でも二酸化炭素の発生量は、天然ガス発電の2倍もある。仮に、水素を20%混焼（約350億kWh分の電力）しようとすれば、254億m^3(230万トン）の水素が必要となる。これを水の電気分解で作ろうとすれば、必要となる電力は約900億kWhと計算される。これは、2030年に想定される総電力量の10%弱に相当する。まして、将来的には、石炭火力発電全体を水素やアンモニアで代替するような意見も聞かれるが、絵に描いた餅としか言いようがない。確かに、太陽光・風力発電で生ずる余剰電力を水素として貯めておくとのアイデアはあるが、貴重な「グリーン水素」は燃料電池車や合成燃料等の有効な使い方をすべきと思料する。

また、「グリーン水素」「ブルー水素」を海外から輸入する動きも活発で、ENEOSや商社各社がオーストラリアやサウジアラビア等から水素を運ぶ計画はあるが、水素を液化するには、-253℃（LNGは-163℃）の極低温が必要なため経済的に不利とされており、トルエンの水素化でMCH（メチルシクロヘキサン）に転換し、タンカーで日本に運んでから消費地で水素を取り出すことが計画されている。日本では二酸化炭素を貯留するCCSの適地は少ないと言われているが、海外での天然ガス採掘跡地では比較的容易に貯留でき、ブルー水素の生産に適しているとされる。

水素価格は下がるのか

水素価格は現行100円/Nm^3であるが、経済産業省は2030年に30円/Nm^3、2050年に20円/Nm^3を目標にしている。しかも、2050年の水素需要量を2000万トン/年としている。現在、日本が輸入するLNG（液化天然ガス）は約7500万トンであることからして、いかに安く多量の水素を確保するか、戦略的構想を持つことが重要である。

最近のニュースで、アラブ首長国連邦（UAE）が建設するギガソーラ（2GW）の電気は1.35米セント（1.8円）/kWhと報道された。この電気を使えば、20円/Nm^3のグリーン水素も夢ではない。しかしながら、輸入・輸送コストをいかに下げるかが次なる課題となり、水素は付加価値の高い使い方に重点を絞ったビジョンを持つべきと考える。

（宮﨑誠）

【自然環境部会コラム】自然を訪ねて（5）伊佐沼で子孫をつなぐキタミソウ

伊佐沼でキタミソウを見たいと思ったら座椅子の持参をお勧めします。小さな小さな生物を見るには腰を曲げ、頭を下げて地面に顔を摺り寄せなければその姿は見えません。一息いれながらゆっくりと落ち着いて観察しましょう。

寒帯性のキタミソウは真夏の地上は苦手です。種子の姿で冷房の効いた沼底で仮眠中のはずです。4年前の2018年11月11日に伊佐沼の定例の野鳥観察会のときに偶然に発見されました。誰もがいつも通る木道のそばでした。ず～っと以前からそこで生きていたのです。キタミソウについては月刊かわごえ環境ネット2021年11月号(No.181)「川越の自然をたずねて」及び本会発行の「新訂版川越の自然」等でも紹介されていますのでここでは詳細は省きますが、実のところその生態については調査が始まったばかりで詳しいことはわかっていません。

キタミソウが見られるのは10月末から翌年3月末の間です。伊佐沼の形は周囲約2.5km、南北に長い長方形、満水期は4月から9月中旬。水の管理は荒川右岸改良区できちんと行われていますので、見方を変えればキタミソウはそのおかげで長い歳月を平穏に生きてこられたことになります。そしてなお、今後も安全な農業用水の管理下で生きていくことになります。

キタミソウは水際でよく目立ち繁茂しています。そして毎期とも花を咲かせる時期が2回ほど訪れます。最初が10月（①）で次が翌年の3月ごろになります。本年も最初はもちろんですが、3月に2回目の繁茂期を迎え白い花が咲きました。そこには発芽直後の10mmぐらいの細い糸状の葉を持った幼体と、成長して果実を付けた大人になったキタミソウ（②）が群落をなしていました。一方では、水はないが湿地の土壌にも2回目の果実を付けた群落がありました（③）。

そして4月5日、すでに伊佐沼に取水が始まっており間もなく満水を迎えようとしていました。キタミソウは水没し姿を見ることはできませんでした。水底の説明を付け加えれば、沈んだキタミソウのそばには1回目で結実したが2回目の発芽には進まず残った「種子1」と2回目の発芽に進み見事結実した「種子2」の両者が混在して眠りについたと考えられます。

水かさが増えつつある水面には浮遊したごみが集まり始め、その中には細いキタミソウの赤ちゃんたちが多数紛れ込んで浮いていました（④）。発芽したばかりキタミソウは根が浅く、流れ込んで来る水の浮力で持ち上げられ流されたのでしょう。その中に果実を付けた固体も混じっていました。

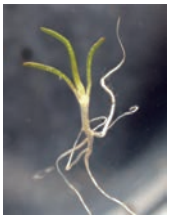
以上述べたように、成長を重ねたキタミソウ群団は、冠水した伊佐沼の底に眠っています。次期となる今年の10月には、両方の種子「種子1」「種子2」に関係なく同時に発芽し、再び白い花を輝かせてくれることを待ちわびています。

（稗島英憲）

① 10月1世

② 1世の果実と殻

③ 4月2世 桜の花びらが見える



④4月水面に浮いた2世の赤ちゃん

【参加者募集】「川越まつり会場 事前クリーン活動」10月9日（日曜日）実施

第8回秋のクリーン活動は、「川越まつり会場 事前クリーン活動」として開催いたします。

川越市市制施行100周年記念「川越まつり」は、10月15日(土)・16日(日)に開催されますが、クリーン活動はまつり開催に先立ち実施し、「美しいお祭り会場」をめざします。

ご参加のほどよろしくお願いいたします。

実施概要

日時：10月9日（日）9:30-11:15

集合場所：本川越駅前交番付近（川越市新富町1-22）

活動場所：本川越駅より、お祭りの軒揃いが取り付けられた蔵造りの街並みや周辺を中心とした川越まつり会場のクリーン活動を行い、中央公民館で集めたごみを分別し解散いたします。

その他：ベストとクリーン活動用の用具を用意しております。

参加申込

9月5日（月）10:00から電話で環境政策課（Tel.049-224-5866）に連絡

当日の連絡先

かわごえ環境ネット　菊地

携帯電話番号 080-5546-2362, E-mail: kikums@beige.ocn.ne.jp

【参加者募集】「2022森フェスin川越」（11月19日開催）10月3日受付開始

川越市市制施行100周年記念事業として、今回初めて開催する「2022森フェスin川越」のご案内です。

（仮称）川越市森林公園計画地という川越市の貴重な自然を生かす取組として企画しました。ぜひご参加ください。

開催概要（事前申込制）

日時：11月19日（土）9:00-12:30（雨天翌日順延）

場所：（仮称）川越市森林公園計画地

参加費：大人200円、小人100円、未就学児無料（支払は当日に現金で受付）

プログラム

9:00 川越南文化会館（ジョイフル）横「森のさんぽ道」入口集合

9:20　Aグループ：森のスタンプラリー、Bグループ：木工ワークショップ、Cグループ：収穫体験&読み聞かせ会

11:00　A/B/C合同：森で歌おう&プチマルシェ

12:30　自由解散

＊プログラム内容は変更となることがあります。

申込

10月3日（月）10:00から電話またはメールで受付、事前申込制（各グループ30名先着順）

参加者全員の氏名・連絡先・参加者数・A/B/Cから希望するグループひとつを連絡

申込・問い合わせ先

かわごえ環境ネット事務局（川越市環境政策課）

Tel.049-224-5866，E-mail: kankyoseisaku@city.kawagoe.lg.jp

主催　かわごえ環境ネット

後援　川越市、川越市教育委員会

共催　大木農園、なるかわ農園、矢部農園、たばちゃん農園、川越みどりのサポーター、福原小学校有志の会、あけぼのホール

理事会・事業運営委員会

報告

7月13日（水）2022年度第4回

①第21回かわごえ環境フォーラムの開催方針（2月下旬を予定）、②夏の郊外クリーン活動、③「アースデイ川越 in 昭和の街 2022」（10月2日）への出展

予告

◆事業運営委員会 日時：9月21日（水）9:00-10:00, 10月19日（水）9:00-10:00

◆理事会 日時：9月21日（水）10:00-11:30, 10月19日（水）10:00-11:30

場所：上記いずれも川越市役所（川越市元町1-3-1）地階修養室

社会環境部会

報告

7月8日（金）13:00-15:00に福田ビル3階で社会環境部会の例会を開催。参加者は10名。（8月は休会）

協議事項

①12月開催予定の環境講演会について、講師やテーマ等に関する協議、②夏の郊外クリーン活動についての事前準備等の確認、③2022森フェス in 川越の準備状況について情報を共有

意見交換会の実施

ごみ問題に関心のある東洋大学4年生が例会に参加し、本会実施のクリーン活動を紹介。かわごえ環境ネットのメンバーとプラスチックごみの問題やリサイクルの状況等について意見交換した。

（社会環境部会代表 増田知久）

予告

●社会環境部会（第2金曜日）日時：9月9日・10月14日（金）13:30-15:00 場所：福田ビル3階会議室 ＊会員は予約なしで参加可

自然環境部会

報告

7月例会は8日（金）9名参加、福田ビル3階にて開催（8月は休会）。

1. 活動報告

①「（仮称）川越市森林公園」計画地定例活動 6月13日（月）八王子片倉城跡公園で観察会 12名、6月27日（月）17名参加 植物調査・観察 ノヤマトンボ、ナガバハエドクソウ、クモキリソウ、シャクジョウソウ、サワフタギタケ等、7月11日（月）武蔵野ふれあいの森保全作業 21名参加、7月25日（月）17名参加 引き続きの作業ですっきりした林床になった　② 池辺公園定例活動 6月14日（火）8名参加 ニガクサ保護や林内整備、7月12日（火）中止　③「社寺林の観察会」6月18日（土）16名参加 2グループに分かれて行動 別ページ参照　④つばさ館周辺小畔川土手生き物調査 8名参加 植物 58科127種（うち県のレッドデータ掲載種が2種、公園植栽種を除く外来種26種[20.5%]）、鳥類12種、昆虫4種、その他は3種 ⑤牧野彰吾氏講師の学習会「川越版レッドデータブックを考える」6月23日（木）ウェスタ川越 14名参加　⑥「キノコの観察会」7月10日（日）19名参加 別ページ参照　⑦安比奈親水公園生きもの調査 7月27日（水）8名参加　⑧「虫の観察会」7月30日（土）22名参加 別ページ参照

2. 協議事項

①調査で明らかになった希少種について保全策を行政の管理担当者に要望していくことについて話し合った。②ナラ枯れは依然として広がっており、調査を続けることについて話し合った。

（自然環境部会代表 賀登環）

予告

★「（仮称）川越市森林公園」計画地 植物調査・保全活動（毎月第2・第4月曜日）日時：9月12・26日，10月10・24日（月）9:30-12:30 集合：川越南文化会館（ジョイフル）（川越市今福1295-2）問い合わせ：賀登（Tel.049-234-9366）

★池辺公園定例活動（毎月第2火曜日）日時：9月13日・10月11日・11月8日（火）9:00-12:00 場所：池辺公園（川越市池辺1302）問い合わせ：賀登（Tel.049-234-9366）

★小畔川魚とり遊び 9月18日（日）9：30-12：00　場所：かほく運動公園（川越市霞ヶ関北6-28-2）費用：200円 20名募集 問い合わせ：賀登（049-234-9366）

★水上公園生き物観察会 9月24日（土）9:30-12:00 川越水上公園 20名募集

上記2件の行事の申込：環境政策課（049-224-5866）広報川越9月号参照

●自然環境部会（第2金曜日）日時：9月9日・10月14日（金）15:00-17:00 場所：福田ビル3階会議室 ＊会員は予約なしで参加可

広報委員会

募集

報告・予告・おしらせの原稿

2022年11・12月号（No.188, 11月1日発行）の原稿は10月8日（土）提出締切。原稿（テキスト、図表）と写真等の画像（高解像度）は電子データで編集担当共有のメーリングリスト（koho@ml.kawagoekankyo.net）に送付。メーリングリストは事前登録が必要。未登録の方は広報委員会メール（koho@kawagoekankyo.net）に問い合わせを。メール未使用の方はかわごえ環境ネット事務局（環境政策課、川越市役所5階）に提出。

予告

◆広報委員会 日時：9月7日・10月12日（水）9:00-9:30 場所：オンラインミーティング（アクセス方法は委員に別途案内）

【募集】第21回かわごえ環境フォーラム「環境活動報告集」への投稿・発表者募集

スケジュール

① 2022年12月12日（月）
「投稿・発表申込書」提出期限

② 2023年1月4日（水）
レポート投稿最終期限

③ 2023年2月25日（土）午前
ウェスタ川越で発表

趣旨

「第21回 かわごえ環境フォーラム」の開催にあたって、環境活動をされている個人・団体からの環境活動報告を広く募集します。個人・団体の年間の活動報告を「かわごえ環境活動報告集」に集積して情報共有を図ります。積極的な応募をお待ちしています。

応募要項

①「投稿・発表申込書」の提出、②レポート投稿（4ページ以内）、③発表（希望者）の3段階があります。それぞれの期限、期日は左記「スケジュール」の通りです。

詳細

会員の方は本紙に同封またはメールで別送される応募要項をご覧ください。かわごえ環境フォーラムホームページにも掲載されています（原稿フォーマットあり）。会員外の方も投稿・発表歓迎です。

かわごえ環境フォーラム（https://forum.kawagoekankyo.net）

NPO 法人かわごえ里山イニシアチブ

増田純一（E-mail: hatsukarinosato@googlegroups.com, Tel.070-5599-2623）

近況報告

7月2日（土）田んぼの生きものソムリエ林鷹央講師をお招きして生きもの調査を行いました。田んぼでは生きものにぎわいを取り戻しています。

調査の様子

林鷹央講師と調査結果

Facebook https://www.facebook.com/kawagoesatoyama
HP http://kawagoesatoyama.ciao.jp/

川越フォレストクラブ

賀登環（Tel.049-234-9366）

報告

7月13日（水）は雨のため中止

予告

◎「（仮称）川越市森林公園」計画地雑木林の手入れ 9月14日・11月9日(水) 8:30-12:00 集合：川越南文化会館（ジョイフル）「（仮称）川越市森林公園」計画地で、動力班と手作業班で効率よく、かつ植生に配慮した手入れを実施。奇数月の第2水曜日が活動日。

小畔川の自然を考える会

賀登環（Tel.049-234-9366）

報告

7月5日（火）入間川浅間堰下流、川越橋下で魚類調査、7月24日（日）小畔川かほく運動公園近くの親水ゾーン ここはバス類が多い。他にはオイカワ、カマツカ、今や珍しくなったミズカマキリも。

予告

◎魚類調査 10月23日（日）9:30-12:00 宮沢湖付近の源流域 問い合わせ：賀登

公益財団法人埼玉県生態系保護協会川越・坂戸・鶴ヶ島支部

内野（Tel.049-222-1731）、当日の携帯電話連絡（Tel.090-7003-8617）

予告

◎伊佐沼でバードウオッチング（毎月第2日曜日、雨天中止）
集合：10:00 伊佐沼西岸蓮見橋近くのあずまや，持ち物：筆記用具・図鑑・双眼鏡・飲み物，参加費：一般300円、高校生以下100円（保険代・資料代）
① 9月11日（日）10:00-12:00 シギ、チドリの渡りが多く見られます。この時期だけ伊佐沼に飛来する鳥を探します。② 10月9日(日) 10:00-12:00 水の少なくなった沼で、サギは小魚を捕り、干潟でシギ、チドリが餌を探す様子を観察します。

個人会員からのおしらせ

松岡壽賀子さん（社会環境部会）

高階南公民館（Tel.049-245-3581）

予告

◎かんきょうサロン「健康と環境とお財布にやさしい生活術」 会場：高階南公民館1階会議室1号（川越市藤原町23-7），持ち物：直近2～3か月分の電気料金票，参加費：無料
① 9月8日（木）10:00-12:00「日差しの活用術」ソーラークッカーやソーラーボトルを使用することで電気・ガスの使用量の節約にもなります。② 10月13日（木）10:00-12:00「電気・ガスの使用量を減らすには」寒くなる前にこそ、健康面から考えて寒さ対策の準備をしよう。参加されたみなさんと身体や環境に負荷の少ない取組や暮らし方など、井戸端会議のようにお話ししています。知って、その後を豊かに楽にしましょう。1人でも多く動いたら減災・防災につながります。

川越市環境政策課

みどりの担当（Tel.049-224-5866）

募集

○植樹事業の寄附金 農業ふれあいセンターにて、寄附金による植樹事業を実施します。みなさまからのご支援をお待ちしております。募集期間は 11月30日（水）まで。
寄附の区分：1口1万円から。寄附者特典：記念プレートにお名前を記載します。詳細はWebで（下記QRコードからアクセス）。

川越市では植樹事業の寄附金を募っております。（https://www.city.kawagoe.saitama.jp/kurashi/kankyo/sonohokakankyo/kankyoseisakukifu.html）

6-8ページの記号凡例
★：本会主催・後援等一般公開行事　●：本会会員対象行事　◆：本会理事・委員対象会合　◎：本会会員等主催のイベント等　○：その他（個別記事参照）

【後援】「ミライに会える日」アースデイ川越 in 昭和の街 2022（10月2日開催）

2022 ミライに会える日 アースデイ川越 in 昭和の街

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

開催概要

開催日時：10月2日（日）10:00-15:00（入場無料、少雨決行）
場所：蓮馨寺（川越市連雀町7-1）及びオンラインのハイブリッド開催
目的：地球規模の課題である環境保全と国際交流について、子どもたちを中心とした幅広い世代に考えてもらうため、それぞれの課題に取り組む団体の出展を通じて2015年に国連において採択された「SDGs」（持続可能な開発目標）の普及啓発を図ること。
行事内容：出展者によるワークショップ、体験展示・物品頒布など（参加に応じたポイントによってプレゼント進呈）

出展者（順不同、予定）

①川越ワイズメンズクラブ、②埼玉YMCA、③生活クラブ川越支部、④～⑦ボーイスカウト川越協議会（川越第2団、川越第3団、川越第9団、川越第10団）、⑧ガールスカウト埼玉県第21団、⑨NPO法人かわごえ里山イニシアチブ、⑩小江戸南古谷農園、⑪芝浦工業大学、⑫次世代SDGsラボ川越、⑬かわごえ環境ネット、⑭東洋大学地域活性化研究所×仙波書房、⑮川越子ども応援パントリー、⑯小江戸川越夢ピアノ、⑰ミュオグラフィアート埼玉拠点、⑱川越女子高校音楽部、⑲あけぼのホール、⑳埼玉県水環境課

プログラム等の詳細（Web掲載）

アースデイ川越 in 昭和の街（http://showanomachi.net/earthday）

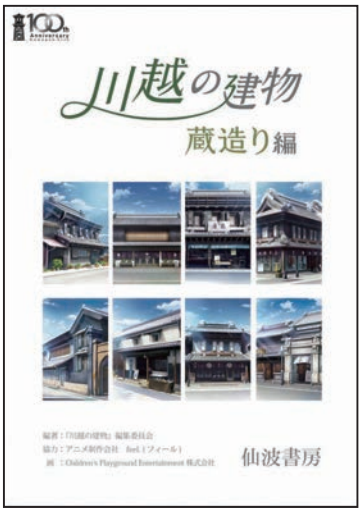
2022年9月

1 木			
2 金			
3 土			
4 日			
5 月	○	10:00	「川越まつり会場 事前クリーン活動」参加申込開始
6 火			
7 水	◆	9:00	広報委員会
8 木	◎	10:00	かんきょうサロン「健康と環境とお財布にやさしい生活術」
9 金	●	13:30	社会環境部会
	●	15:00	自然環境部会
10 土			
11 日	◎	10:00	伊佐沼でバードウォッチング
12 月	★	9:30	（仮称）川越市森林公園計画地植物調査・保全活動
13 火	★	9:00	池辺公園保全活動
14 水	◎	8:30	「（仮称）川越市森林公園」計画地雑木林の手入れ
15 木			
16 金			
17 土			
18 日	★	9:00	小畔川魚とり遊び（要申込）
19 月			敬老の日
20 火			
21 水	◆	9:00	事業運営委員会
	◆	10:00	理事会
22 木			
23 金			秋分の日
24 土	★	9:30	水上公園生き物観察会（要申込）
25 日			
26 月	★	9:30	（仮称）川越市森林公園計画地植物調査・保全活動
27 火			
28 水	◆	9:30	「2022森フェス in 川越」実行委員会
29 木			
30 金	◎		『川越の建物 蔵造り編』発行

2022年10月

1 土			
2 日	★	10:00	アースデイ川越 in 昭和の街 2022
3 月	○	10:00	「2022森フェス in 川越」参加申込開始
4 火			
5 水			
6 木			
7 金			
8 土	○		本紙11・12月号原稿投稿期限
9 日	★	9:30	川越まつり会場 事前クリーン活動
	◎	10:00	伊佐沼でバードウォッチング
10 月			スポーツの日
	★	9:30	（仮称）川越市森林公園計画地植物調査・保全活動
11 火	★	9:00	池辺公園保全活動
12 水	◆	9:00	広報委員会
13 木	◎	10:00	かんきょうサロン「健康と環境とお財布にやさしい生活術」
14 金	●	13:30	社会環境部会
	●	15:00	自然環境部会
15 土			
16 日			
17 月			
18 火			
19 水	◆	9:00	事業運営委員会
	◆	10:00	理事会
20 木			
21 金			
22 土			
23 日	◎	9:30	魚類調査（宮沢湖付近の小畔川源流域）
24 月	★	9:30	（仮称）川越市森林公園計画地植物調査・保全活動
25 火			
26 水			
27 木			
28 金			
29 土			
30 日			
31 月			

◎【新刊紹介】第2弾『川越の建物 蔵造り編』9月30日発行



「川越の建物」シリーズ第1弾は、川越市内の近代建築を紹介する『川越の建物 近代建築編』が好評発売中。第2弾は、川越市内の蔵造りを紹介する『川越の建物 蔵造り編』を9月30日に発行。建物を写真とイラストで紹介し、イラストはアニメーション制作会社による画を扉絵に採用。

本書では建物の概要と、歴史、まつわる話をやさしく紹介。建物巡りを通して、川越がもっと好きになれる一冊としておススメ！　（仙波書房 代表 神谷利一）

入会案内

←かわごえ環境ネット会員募集　年会費個人1,000円・団体2,000円で本紙を郵送またはメールで送付。イベントへの優先参加、本紙への記事掲載など特典あり。

かわごえ環境ネットインターネットアクセス（QRコード）

ホームページ　Twitter　Facebook

Instagram　YouTube　note

おことわり　本紙の記事は、各著者の寄稿及び広報委員会の編集によって構成されていますが、これらは、組織の公式な見解を示すものではありません。また、本紙は寄稿及び作成時点までの信頼できる各種情報に基づいて作成し、正確性の確保に努めていますが、その正確性に対してかわごえ環境ネットは責任を負いません。本紙は読者ご自身の判断と責任で利用いただき、本紙を利用することで生じたいかなるトラブルおよび損失、損害に対して、かわごえ環境ネットは一切責任を負いません。

広報 かわごえ環境ネット
2022年9・10月号
No.187

発行日：2022年9月1日　編集・発行：かわごえ環境ネット 広報委員会
事務局：川越市環境部環境政策課 350-8601 埼玉県川越市元町 1-3-1
Tel.049-224-5866（直通）, Fax.049-225-9800, E-mail: kankyoseisaku@city.kawagoe.lg.jp
かわごえ環境ネットホームページ https://kawagoekankyo.net